**令和５年度　校内研修計画**

**１ 学校課題**

　本校の児童は，全体的に明るく素直で，何事も前向きに取り組むことができる雰囲気がある。全校で集まる場面での集合や整列，学習のきまりなどを守り，仲良く過ごしている。

児童の学力については，昨年度の各学年のNRTの分析から，国語・算数ともに偏差値は全国とほぼ同じ水準と言える。学年によって領域ごとの得点に偏りがあったり，上位と下位の差が大きかったりという学年ごとの課題が見られる。個別支援が必要な児童が，どの学年にも数名在籍している。

基礎基本の学力の定着を大切にしながら，どの子にもわかる授業づくりをすること，既習事項を関連付けて解決する力を身につけることが求められる。また，一人一台端末の効果的な活用ができるよう，研修を進めていく必要があると考える。

**２ 研究主題**

**確かな学力の定着・向上を目指した指導の工夫**

 　　　　　　　　　　　　～ＩＣＴを効果的に活用した授業づくり～

**３ 主題設定の理由**

（１）社会的な課題から

　グローバル化や情報通信技術の進展，少子高齢化などの社会の急激な変化に伴い，高度化・複雑化する諸課題への対応が必要となっており，多様なベクトルが同時に存在・交錯する，変化が激しく先行きが不透明な社会に移行しつつある。こうした中で，幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて知識を活用し，付加価値を生み，新しい価値を創造することや個人や集団の多様性を尊重しつつ，他者と協働して課題解決を行う力が求められている。

学習指導要領では,「豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される児童に,生きる力を育むことを目指す」とし，「主体的・対話的な深い学びの実現に向けた授業改善を通して,創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開するなかで,児童に生きる力を育むことを目指すものとする」としている。前回の学習指導要領と同様に，知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力の育成，学ぶ意欲をバランス良く育成するが，「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら，知識理解の質を高め，確かな学力を育成することをねらいとしている。主体的な学びとは，児童が学ぶことに興味や関心を持ち，見通しを持って粘り強く取り組み，自己の学習活動を振り返って次につなげる学びであり，対話的な学びとは，子ども同士の協働，教職員や地域の人との対話，先哲の考え方を手がかりに考えること等を通じ，自己の考えを広め深める学びである。深い学びとは，習得・活用・探求という学びの過程の中で，各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら，知識を相互に関連付けてより深く理解したり，問題を見いだして解決したり，思いや考えをもとに創造したりすることに向かう学びである。確かな学力の育成には，この三つの視点に立って授業改善を進める必要がある。

 令和５年度山梨県学校教育指導重点の中では，「確かな学力の育成」のための授業改善として次のことが示されている。

・各教科等の特質に応じた言語活動の充実を図り，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う。

・児童生徒らが自ら学習状況を把握し，学習を調整しながら粘り強く取り組む姿勢を育てるため，「主体的に学習に取り組む態度」の観点から指導と評価の改善を行う。

・それぞれの教科等の目標を実現するとともに，児童生徒の発達段階を考慮しながら情報活用能力を育成することができるよう，一人一台端末等のICTを適切に活用した授業の充実を図る。

・児童生徒の読解力・記述力を高めるため，目的に応じて，複数の情報を関連付けながら，自らの考えを記述する活動を取り入れる。

昨年度に引き続き，新しい時代に必要となる資質・能力の育成に努め，主体的・対話的で深い学びに迫ることが求められているとともに，ＩＣＴも最大限活用しながら，多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成する『個別最適な学び』と，子供たちの多様な個性を最大限に生かす『協働的な学び』の一体的な充実が求められている。

　以上のことにより，研究主題を「確かな学力の定着・向上を目指した指導の工夫」，副主題を「ＩＣＴを効果的に活用した授業づくり」と定め，昨年度に引き続き研究に臨んでいきたい。

**４　研究内容・方法**

1）授業づくりの研究

　　R・P・D・C・Aサイクルの確立

①講師を招聘しての学習会

・ICT活用についての学習会

　　②課題解決に向けた取り組み

　　・ICTを効果的に取り入れた授業研究

・一人一実践授業

2)学級力向上プロジェクトへの取り組み

①学級力の学習会

②学級力アンケートの実施，スマイルアクションの実施

③実践紹介

3) 積み上げてきた研究・学習環境づくりの継続

　○学習のきまり

・「学習あたりまえ６か条」の継続とバージョンアップ

・対話を支える話し方の指導：話型の掲示，伝え合いの仕方の定着

　・「やまなしスタンダード」による授業改善

○家庭学習と連動した授業の工夫

・「家庭学習の手引き」の活用

・「自主学習ノート」の取り組み

・家庭でのタブレット活用実践の交流

**５　研究計画**

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 学期 | 　月 | 　日 | 　　　　　　　　研究内容 | 形　態 | 　担当者 | 講師 |
| １学期 | ４ | １３ | 今年度の方向性について  | 全体 | 研究主任 |  |
| ２６ | 研究内容・学力向上の取り組みについて | 全体 | 研究主任 |  |
| ５ | ２４ | ＩＣＴ研修会 | 全体 | 研究主任 | 〇 |
| ３１ | 全体研　 | 全体 | 研究主任 |  |
| ６ | ７ | 全体研　学級力の取り組みについて | 全体 | 研究主任 |  |
| ２１ | ＩＣＴ研修会外部講師による学習会 | 全体 | 研究主任 | 〇 |
| ７ | ５ | 全体研　 | 全体 | 研究主任 |  |
| １９ | 全体研 | 全体 | 研究主任 |  |
| ２学期 | ８ | ２３ | 教育課程環流学習会ＩＣＴ実践報告会学力テスト・ＮＲＴ分析 | 全体 | 教務主任各学年担任 |  |
| ９ | ６ | 全体研　 | 全体 | 研究主任 |  |
| １３ | 全体研　 | 全体 | 研究主任 |  |
| １０ | ４ | 全体研　指導案検討① | 全体 | 授業者 |  |
| １１ | 全体研　 | 全体 | 授業者 |  |
| １８ | 全体研　指導案検討② | 全体 | 授業者 |  |
| ２５ | 全体研 | 全体研 | 研究主任 |  |
| １１ | ８ | 研究授業 | 全体 | 研究主任 | 〇 |
| １５ | 全体研 | 全体 | 研究主任 |  |
| ３０ | 研究のまとめと研究紀要について　　　 | 全体 | 研究主任 |  |
| ３学期 | １ | ２５ | 研究のまとめ・アンケート結果より  | 全体 | 研究主任 |  |
| ２ | ８ | 研究紀要原稿締め切り研究紀要作成 | 全体 | 研究主任 |  |